

知り合う

エペソ人への手紙4章25節（1558年頃、ジュネーブにて）について、ジョン・カルヴァンはこう述べています。「世間が賢明と呼ぶものを、聖パウロは偽りと呼ぶ」つまり、世間が賢いと思っていることを、パウロは欺瞞だと考えていると述べています。

それから400年以上経った今、カルヴァンのこの言葉は、例えば政治、学問、ビジネス、そして教会において、今もなお真実であることにあなたは同意しますか？

聖句 – エペソ人への手紙 4:25-27（聖書協会共同訳）

文脈：パウロは4章の初めから、クリスチャン一人ひとりが自分の古い生き方を捨て、キリストのように、神にかなった新しい生き方を受け入れることができること、またそうすべきであると教えてきました。 そして、クリスチャン一人ひとりがこのように変わっていくとき、すべての人が一つに結ばれて一つの体を形成し、それぞれのメンバーが他のメンバーに仕え、支えていくのです。

パウロはこの教えを今日の朗読箇所、エペソ4:25-27に続けています。

25 ですから、偽りを捨て、一人一人が隣人に真実を語りなさい。私たちは互いに体の部分だからです。26 怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。27 また、悪魔に隙を与えてはなりません。（聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 2018）

学び

1. 25節の終わりに、パウロはこう書いています。「私たちは互いに体の部分だからです。」これは、どういう意味だと思いますか？ パウロが 「私たち」と言っているのは、自分も読み手も体の一部であるという意味です。 他に、体の部分の人はいますか？ いるとしたら、誰ですか？
(エペソ4:15-16、1コリント12:12、コロサイ1:18、24)

2. 「隣人」とは誰のことでしょうか？（ガラテヤ6:10）

ディスカッション:

1. 25節で、パウロは単にメンバーが他人に嘘を言ってはいけないと教えているのでしょうか？それとも、それ以上の意味があるのでしょうか？ クリスチャンは繕った表現を使ってもいいのでしょうか？あるいは政治的に正しくあろうとすることは問題でしょうか？その線引きはどこにあるのでしょうか？
(1テモテ3:2a)

2. 罪を犯さずに怒ることは（神以外）可能ですか？罪を犯さずに長い間怒ることは可能ですか？

適応: パウロはこう述べています。「日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。」 家族、教会、学校、会社の人との関係に、この知恵をどのように生かすことができるでしょうか？

シェア

なぜ怒りを克服することは難しいのでしょうか？ もしあなたが怒りを克服し、それを分かち合うことに差し支えなければ、どのようにして克服したか分かち合ってください。

成長

賛美と具体的な祈りの課題を分かち合うことによって、互いに仕えましょう。

- 互いに利己的になりすぎたり、怒りすぎたりすることがいかに危険であるかを知るために、神が私たちの心の目を開いてくださるよう祈りましょう。

- 欺きと怒りを捨て、真実を語り、赦し、愛することを学ぶことができるように助けを求め祈りましょう。